

平成 25 年度
特別委員会調査研究結果報告書

議会活性化推進特別委員会

平成 26 年 3 月
豊田市議会

目 次

| | |
|----------------------|----|
| 1 設置の経過 | 1 |
| 2 調査研究事項 | 1 |
| 3 委員会等開催状況と内容 | 2 |
| 4 調査研究結果 | 4 |
| 第1部 地域市議会報告会の検証及び評価 | 5 |
| 1-1 背景 | 6 |
| 1-2 調査研究結果 | 6 |
| 1-3 提言 | 7 |
| 1-4 今後の検討事項 | 9 |
| 第2部 議員定数等の整理 | 10 |
| 2-1 背景 | 11 |
| 2-2 調査と意見集約 | 11 |
| 2-3 調査研究結果 | 17 |
| 5 おわりに | 18 |
| < 添付資料 > | |
| 各種団体との意見交換会実施記録 | 19 |
| < 別冊 > | |
| 議員定数等の整理に係る委託調査結果報告書 | |

平成26年 3月17日

豊田市議会議長

杉 浦 弘 高 様

議会活性化推進特別委員会

委員長 梅 村 憲 夫

議会活性化推進特別委員会調査研究結果報告書

本委員会は、平成25年5月14日の本会議において設置されて以来、委員会の設置目的である、更なる議会改革を目指すために、2年間実施している市民シンポジウム、地城市議会報告会についての効果の検証と改善策及びこれまでの議会活性化に関する特別委員会で検討された主要課題の再検証について調査研究を行ってきた。

具体的な調査研究テーマとして「市民の議会活動への参画の確保」及び「本市に適正な議員定数の調査研究」について、調査研究を行い、下記のとおり調査結果をまとめた。その結果について報告する。

記

1 設置の経過

(1) 平成25年5月14日の本会議において設置され、次の11名が委員に選出された。

岩月幸雄、梅村憲夫、大村義則、岡田耕一、加藤和男、神谷和利、
作元志津夫、桜井秀樹、田代 研、三江弘海、山口光岳

(2) 同日開催の委員会において、委員長に梅村憲夫、副委員長に桜井秀樹を選出した。

2 調査研究事項

(1) 調査研究テーマ及び調査研究項目

本委員会の設置目的を踏まえ、調査研究テーマを「市民の議会活動への参画の確保」と「本市に適正な議員定数の調査研究」とし、具体的な調査研究項目として以下の2点について調査研究を行うこととした。

- 1 地城市議会報告会の検証及び評価
- 2 議員定数等の整理

(2) 調査研究期間

平成25年5月14日～平成26年3月17日

3 委員会等開催状況と内容

| | 期　　日 | 内　　容 |
|---|--|--|
| 1 | 平成25年 5月14日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・正副委員長互選 |
| 2 | 6月11日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究テーマについて ・今後の進め方について ・全議員アンケートについて ・今後の開催日程 |
| 3 | 6月28日(金) | <ul style="list-style-type: none"> ・全議員アンケート結果について ・委託契約内容について |
| 4 | 7月19日(金) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域市議会報告会・市民シンポジウムの改善事項について ・議員定数に関する委託（資料調査）の項目案について ・今後の開催日程 |
| 5 | 8月2日(金) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域市議会報告会・市民シンポジウムの改善事項（修正案）について ・議員定数等整理に係る実施内容について |
| 6 | 8月27日(火) | <ul style="list-style-type: none"> ・地域市議会報告会の検証及び評価に係る中間報告書（案）について ・議員定数等整理に係る実施内容について ・市民意識の把握（アンケート）項目及び実施団体について |
| 7 | 9月12日(木) 9月17日(火) 9月25日(水) 9月26日(木) | <ul style="list-style-type: none"> ・議会だより（9月定例会号）掲載記事について ・市民意識の把握（アンケート）項目及び実施団体について ・各種団体との意見交換会日程及び委員派遣について ・議員定数に関する委託（資料調査）について ・今後の開催日程 <p>連合愛知豊田地域協議会との意見交換会</p> <p>豊田青年会議所との意見交換会</p> <p>区長会との意見交換会</p> |
| 8 | 9月27日(金) 9月28日(土) 9月30日(月) 10月2日(水) 10月7日(月) 10月7日(月) 10月8日(火) 10月9日(水) 10月9日(水) | <ul style="list-style-type: none"> ・全体スケジュールについて ・各種団体との意見交換会、アンケート実施団体の追加及び委員派遣について ・議員定数に関する委託について ・地域市議会報告会における報告内容について <p>子ども会育成連絡協議会との意見交換会</p> <p>あいち豊田農業協同組合との意見交換会</p> <p>消防団との意見交換会</p> <p>母子保健推進員の会との意見交換会</p> <p>商工会(藤岡、小原、足助、下山、旭、稻武)との意見交換会</p> <p>老人クラブ連合会との意見交換会</p> <p>豊田商工会議所との意見交換会</p> <p>P T A連絡協議会との意見交換会</p> |

| | | |
|----|-------------------|--|
| 9 | 10月18日（金） | <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数検討にあたっての確認事項について ・議員定数に関する委託について ・各種団体との意見交換実施結果について |
| | 11月 1日（金） | 消費者グループ連絡会との意見交換会 |
| 10 | 11月 1日（金） | <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数に関する委託について ・地域市議会報告会における実施内容について |
| | 11月 9日（土） | 地域市議会報告会 <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数に関する調査研究についての報告・意見交換 |
| 11 | 11月14日（木） | <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数に関する委託について ・各種団体との意見交換実施結果について ・地域市議会報告会実施内容の検証について ・今後の開催日程 |
| 12 | 11月28日（木） | <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数に関する委託について ・議会だより（12月定例会号）の掲載内容（案）について ・議員定数を考える上で重視すべき視点について |
| 13 | 12月13日（金） | <ul style="list-style-type: none"> ・議会だより（12月定例会号）の掲載内容（案）について ・地域市議会報告会・市民シンポジウムの改善事項（案）について ・具体的な議員定数とその考え方について |
| 14 | 12月24日（火） | <ul style="list-style-type: none"> ・本市に適正な議員定数について |
| 15 | 平成26年 1月10日（金） | <ul style="list-style-type: none"> ・本市に適正な議員定数について |
| | 1月26日（日） | 市民シンポジウム <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数に関する調査研究についての報告 |
| 16 | 2月13日（木） | <ul style="list-style-type: none"> ・地域市議会報告会・市民シンポジウムの改善事項（案）について ・本市に適正な議員定数について ・今後の開催日程 |
| 17 | 2月28日（金） | <ul style="list-style-type: none"> ・本市に適正な議員定数について ・調査研究結果報告書の骨子（案）について |
| 18 | 3月17日（月） | <ul style="list-style-type: none"> ・調査研究結果報告書（案）について |

4 調査研究結果

調査研究の結果については、以下、第1部「地域市議会報告会の検証及び評価」と第2部「議員定数等の整理」として報告する。

第1部 地域市議会報告会の検証及び評価

- 1-1 背景
- 1-2 調査研究結果
- 1-3 提言
- 1-4 今後の検討事項

第2部 議員定数等の整理

- 2-1 背景
- 2-2 調査と意見集約
 - (1) 委託調査結果
 - (2) 各種団体との意見交換実施結果
 - (3) 各委員意見
- 2-3 調査研究結果
議員定数について

第1部 地域市議会報告会の検証及び評価

1－1 背 景

1－2 調査研究結果

1－3 提 言

1－4 今後の検討事項

1－1 背景

- (1) 平成22年度に議会活性化特別委員会が設置され、豊田市議会基本条例第15条に規定している「市民の議会活動への参画の確保」を踏まえた議会としての取組を検討し、市民シンポジウム、地域市議会報告会、市民意識の把握についての提言がされた。
- (2) 平成23年度に議会活性化推進特別委員会が設置され、豊田市議会として初めての地域市議会報告会、市民シンポジウム、市民意識調査を実施するとともに、運営組織体制、実施内容及び実施要綱（案）について提言された。

1－2 調査研究結果

改善事項（案）作成の主な流れ

改善事項（案）については、平成22年度及び平成23年度の議会活性化推進特別委員会調査研究結果報告書における地域市議会報告会、市民シンポジウムの運営方法等に関する提言及び平成25年8月に提出した議会活性化推進特別委員会中間報告書（以下、「中間報告書」という。）を踏まえ、次の過程で作成した。

(1) 情報収集・アンケート素案の作成

過去に実施した地域市議会報告会、市民シンポジウムにおける参加者アンケート結果の意見を踏まえ、全議員対象に実施するアンケート素案を作成した。

(2) 全議員アンケートの実施と改善事項素案の作成

過去の議会報告会、市民シンポジウムの改善事項について、全議員によるアンケートを実施した。共通事項など内容を精査の上、改善事項素案を作成し、本特別委員会にて確認及び意見聴取を行った。

(3) 中間報告書の完成と中間報告

意見聴取後、修正した素案を本特別委員会にて最終確認し、中間報告書案を作成した。本特別委員会にて確認後、正副議長への報告、全員協議会において全議員へ中間報告を行った。

(4) 地域市議会報告会・市民シンポジウムの試行実施と改善事項（案）の見直し

中間報告書における提言の一部を地域市議会報告会及び市民シンポジウムで試行実施し、実施後、本特別委員より再度意見を聴取した。その意見を踏まえ、改善事項の見直しを行った。

(5) 改善事項（案）の完成

見直し後の改善事項（案）を本特別委員会にて最終確認し、完成した。

1－3 提　言

本特別委員会の設置目的を踏まえて作成した地域市議会報告会・市民シンポジウムの改善事項について（案）は以下のとおりとする。

全体を通して

当日のテーマをはじめ、全体の運営について、以下の基本事項をもとに議会運営委員会の主宰のもと、現場の所管常任委員会が主体性をもって運営する。

1 開催日時

①土・日曜日の午後を基本とし、地域行事や地域性を考慮した上で、開催日時等は決定する。

※若い世代の参加などさらなる参加者の増加を促すにあたり、未だ報告会が十分に認知されていないと考えられるため、当面は従前の時間帯で継続的に実施するとともに、周知・PR活動を充実させ、議会報告会等の認知度を高めていくことが重要であると考える。

2 周知・PR方法

①既存PR媒体（議会だより、ホームページ（議会、市）、市広報、報道機関、CATV、FMラジオなど）を活用する。

②交流館など主要な公共施設へのチラシ配布やポスター掲示を行う。

③【新規】開催地周辺での自治区回覧や区長会・地元議員の後援会などにチラシ配布やポスター掲示、参加の呼びかけを各議員が手分けをして行うほか、開催地周辺の諸団体（老人クラブ、PTA、子ども会、こども園保護者会など）にも呼びかけを行う。また市民シンポジウム等における開催テーマに応じて、関連する諸団体（地域の大学や青少年センターなど若い世代への呼びかけを含む）へも同様に呼びかけを行う。

3 事前準備について

①報告会資料について、イラストや写真などを積極的に活用するほか、わかりやすい言葉を用いて作成する。

②【新規】開催内容の検討にあたっては、議会運営委員会の主宰のもとに、地域市議会報告会及び市民シンポジウムの周知方法、開催テーマ、実施内容について、地元議員を含め、事前に検討を行う体制を整備する（既存の常任委員長会議や例えば各常任委員会副委員長で組織する「（仮称）地域市議会報告会等検討委員会」など設置）。

③わかりやすく、報告しやすい資料づくりの観点から、説明資料は所管常任委員会の議員を中心に作成し、議会運営委員会の承認のもと、最終的な校正を行う。

4 《地域市議会報告会》報告内容について

- ①【新規】 従前の委員長報告（議案関連報告）については、報告案件を精査し、主だった内容をまとめて報告することとし、新たな試みとして（開催地ごとに）地域性などを考慮した「報告テーマ」を選定の上、報告、質疑、意見交換をし、市政への反映の一助とする。
- ②報告テーマの選定にあたっては、前述の会議体などで事前検討を行う。
- ③議会内での議論の経過（意見、賛成・反対討論など）を報告内容（口頭を含む）に追加する。
- ④従前の議会活性化の取組報告に加え、議会の仕組み、議員の役割、議員活動、行政視察に関する報告や、開催地域に関連した話題などを追加し、報告する。
- ⑤その他、開催地域に関連する議案や、予算・決算については、極力、報告内容に組み入れ、参加者の关心をひく話題を提供し、意見交換を行う。
- ⑥決算審査の報告にあたっては、審議・認定した決定事項と審議過程で出た意見とを十分に区別した上で報告する。
- ⑦以上のことと踏まえ、開催時間（90分）の時間構成については、冒頭説明10分（④の内容）、議案関連報告（報告テーマ含む）25分、質疑応答25分、意見交換会30分程度で実施する。

5 《地域市議会報告会》質疑応答及び意見交換会

（1）共通事項

- ①【新規】 質問・意見は当日事前に受付し、同趣旨の質問・意見の重複を防ぐ。また事前受付した質問・意見に回答した後、従前どおり隨時、質問・意見を受け付ける。
- ②当日での回答が難しい国・県・執行部などに対する質問・意見に関しては、意見として紹介するに留める。また議会に関する質問・意見以外は、原則回答は行わない。
- ③議会に関する質問・意見は、議会だよりなどを通じて、掲載する。
- ④質疑応答時間については25分程度、意見交換会の時間については、30分程度確保する。

（2）質疑応答

- ①テーマ、視点を持って質疑を求める。

（3）意見交換会

- ①事前に意見交換したい内容・テーマを告知した上で意見交換会を行う。

6 《市民シンポジウムについて》実施内容について

- ①シンポジウムの実施にあたっては、ある程度知名度のある講師による講演を企画し、テーマ選定にあたっては、身近でタイムリーな話題、今後、予定されている行政計画や、議員提案による政策条例化を検討している内容など、議会としての取組が市民に理解していただけるよう、適切な時期に市民・議会の意識向上や課題共有につながる観点から決定する。
- ②パネルディスカッションについては、所管常任委員長など議会の代表を含め、市民目線や専門性に特化した人選により行う。
- ③その他、参加者・会場内の意見を聞く時間を確保し、「参加するシンポジウム」を実施する。なお、質問は当日事前に受付し、同趣旨の質問の重複を防ぐ。また事前受付した質間に回答した後、従前どおり隨時、質問を受け付ける。
- ④以上のことと踏まえ、開催時間（120分）の時間構成については、冒頭説明10分、講演45分、休憩5分、パネルディスカッション60分（質疑応答含む）程度で実施する。

1－4 今後の検討事項

今回の提言には含まれないが、将来的な取組として、以下の項目についても今後、議会運営委員会の主宰のもと検討されたい。

- ①大学生をはじめ若者や女性などを主体とした意見交換会・シンポジウムの実施や、各種団体との意見交換会の実施など柔軟な対応を検討する。
- ②議会PRビデオの作成や議会中の様子を動画で作成し紹介することや地域議会報告会・市民シンポジウムの様子を後日ホームページなどで視聴できるようにするなど、前述の会議体を主体として、既存の枠にとらわれない新たな取組を検討する。
- ③さらなる開かれた議会の実現に向け、SNS（ソーシャルネットワーキングサービス）の活用をはじめとした新たな周知・PR方法についても前述の会議体を主体として、検討する。

第2部 議員定数等の整理

2－1 背 景

2－2 調査と意見集約

(1) 委託調査結果

(2) 各種団体との意見交換実施結果

(3) 各委員意見

2－3 調査研究結果

議員定数について

2－1 背景

- (1) 平成21年度に設置された議員定数検討特別委員会の調査研究結果において、適正な議員定数は、地方自治法の改正やその時代、その時々の社会情勢を十分勘案し判断すべきとし、また今後の改選時に合わせて特別委員会等を設置するなどして見直しを行う必要があると確認された。
- (2) 平成23年8月の地方自治法の一部を改正する法律により、地方自治体の自由度を拡大する措置として、地方公共団体の議会の議員定数について、上限数を人口に応じて定めている規定（以下、「法定上限数」という。）を撤廃する改正がなされた。

2－2 調査と意見集約

(1) 委託調査結果 ※詳細は別冊「議員定数等の整理に係る委託調査結果報告書」を参照

①資料調査結果

中核市42市における統計資料等により比較調査を実施した。

- ・平成24年3月時点の年少人口の割合は、15.2%で中核市の中で4番目、老年人口の割合は、22.4%で41番目となっており、今後の成長が見込まれる。
- ・議員定数46人は中核市の中で5番目に多い。
- ・議員定数と人口・面積の関係では、議員1人あたりの人口は9,192人、中核市間で30番目と少なく、議員1人あたりの可住地面積は6.4km²、中核市間で11番目と広い。
- ・産業について、第2次産業の就業者割合が47.7%と中核市の中で最も高く、議員1人あたりの製品出荷額は中核市の中で突出して高い。
- ・財政面では、議員1人あたりの投資的経費は699,969千円、中核市間で4番目に多く、議員1人あたりの議会費は21,881千円、中核市間で20番目に位置する。

②アンケート調査結果

意見交換会実施17団体（『(2) 市民意見の把握 ②』に記載）の構成員を対象に議員定数などに関するアンケートを実施した。

調査期間：平成25年9月から平成25年10月、11月9日（地城市議会報告会）

調査方法：郵送または手配りによる配布・回収

回収状況：配布数1,080通、有効回収数795通、有効回収率73.6%

- ・議会の費用については、「市民の意見を市政に反映させるためには、議会の費用は相応な額であるべき」の回答割合が48.4%と最も高い。
- ・議会の役割としてより重要な項目は、「市民の意見を吸収し、市政に反映させる

こと」の回答割合が 79.5%と高い。

- ・現在の議員定数について、「適正である」の割合が 41.3%、「減らしたほうがよい」の割合が 28.3%、「増やしたほうがよい」が 1.9%となっている。
- ・市民意見の反映に費用がかかってもよいと考える人ほど議員定数が多く必要であると回答する割合が高くなっている。
- ・男性に比べ、女性で経費の節約、議員定数減少への意向が強くみられる。

③有識者ヒアリング調査結果

地方自治に詳しい大学教授 3 人に議員定数等に関するヒアリングを実施した。各大学教授の意見は以下のとおり。

名城大学 昇 秀樹 教授

- ・基本的に議員定数と議員報酬をセットで考えるべきであり、議員定数だけの議論をすることは望ましくない。また、豊田市民がどのような市議会を求めるのかにより、必要な議会の形態は変わるため、まずどのような姿を目指すかを明確にすべきである。
- ・あくまで総花的に、平成 22 年の国の総人口は約 128,000 千人、全国の市町村議会議員は約 32,000 人であり、単純平均で国民 4,000 人に一人の割合である。この割合を豊田市の人口 422,000 人にてはめると 105 人となり、現在の議員数 45 人は少なすぎることはあっても多すぎる根拠にはならない。

近畿大学 丹羽 功 教授

- ・平成 21 年度の検討結果から導き出された定数 46 人は、基本的な定数検討材料である人口、面積の規模からみても実に妥当であり、旧町村からも議員が選出されていることから現状問題ないと考えられる。
- ・地方議会は、さまざまな立場、考え方の議員が適切な割合で存在するべきだと考えている。地域に密着し地域代表である議員、地元基盤ではなく市全体の代表として活動する議員など議員の多様性が保持されることが重要である。
- ・地域会議の今後の役割が議員定数を検討する上でキーポイントとなる。地域会議が今後より発展し、民意の反映、行政の監視の役割が果たされ、さらには地域会議からの政策提案などが可能となれば、定数削減の方向へ向かうことも考えられる。しかし、逆にこの地域会議の役割・効果が認められず、やはり議員の存在は必要であるとなれば定数増加となることも考えられる。

立命館大学 駒林 良則 教授

- ・1 つの常任委員会が合議体として機能するために必要な委員の数として 6~10 人が考えられ、政令指定都市で、担う役割が広範であることも考慮した場合、10 人として考えた。豊田市は中核市であり県の役割も一部担うことを考えると、7 ~8 人と考えられ常任委員会数から 40 人ほどとなる。
- ・議会の権限を現状のまととする場合、増加させる要因は考えられない。基本は 46 人と考える。

④他市事例調査結果

豊田市と類似する特性をもつ他都市の議員定数等の検討状況を調査した。

姫路市（議員定数 47 人）

（※選定理由：議員 1 人あたりの投資的経費、経常収支比率が類似）

《検討経緯、重視した視点および結果》

- ・議会運営委員会において①議員 1 人あたりの人口及び面積についての中核市、県内市比較、②行財政改革の視点、③過去 20 年における見直しの状況など検討。
- ・議会運営委員会での結論は出ず、各派代表者会、議長決定を経て 2 名減(49→47)。

倉敷市（議員定数 43 人）

（※選定理由：議員 1 人あたりの製造品出荷額が高く、工業都市の特性）

《検討経緯、重視した視点および結果》

- ・平成 17 年 8 月に 2 町と合併。定数特例により、2 町より 3 名の増員選挙を実施。
- ・合併協議会以降で定数の改定については検討していない。

宮崎市（議員定数 46 人）

（※選定理由：議員 1 人あたりの人口、可住地面積が同等規模、議員定数が同数）

《検討経緯、重視した視点および結果》

- ・中核市、九州の県庁都市の定数の状況調査、各会派での意見交換、宮崎市自治体連合会からの要望書（定数 38 人とする案）により定数削減の方向性を決定。
- ・中核市における人口が上から 21 番目であり、議員 1 人あたりの人口も同様であるべきという考え方から人口 1 万人に議員 1 人の割合である 40 人に決定。

（2）各種団体との意見交換実施結果　※詳細は添付資料「各種団体との意見交換会実施記録」を参照
市内の各種団体 17 団体と議員定数等に対する意見交換を実施した。

①意見交換実施日時：平成 25 年 9 月～11 月

②意見交換実施団体等：連合愛知豊田地域協議会、青年会議所、区長会、子ども会育成連絡協議会、あいち豊田農業協同組合、消防団、母子保健推進員の会、商工会（藤岡、小原、足助、旭、下山、稻武）、老人クラブ連合会、商工会議所、PTA 連絡協議会、消費者グループ連絡会（以上 17 団体）及び 11 月 9 日開催の地城市議会報告会参加者

【記載は実施日時順】

《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》

- ・他市比較だけでなく、直接、地域と接している議員の感覚も大事。豊田市は豊田市の考え方で定数を決定してほしい。

- ・現状に大きな問題がなく、地域の声が反映された議員が選出されるなら現在の定数でよい。
- ・旧町村をバランスよく守っていくには現状くらいの議員が必要。議員が出せないような地域では魅力もなくなっていく。お金の問題ではない。
- ・地域住民と結びつき、要望や意見をしっかり聞いてもらう点で、今の定数は必要。
- ・現定数を少なくした場合、市民の意見を汲み取るパイプは細くなる。
- ・定数を少なくすると、議員が全く選出されない地域が出るのはどうか。必ず各地域選出の議員が確保できている状態で、仮に定数を減らす結論ならば仕方がない。
- ・合併してまだまだ課題が残っている。当初の目標が未達成のものや逆に無駄があれば、精査のため、ある年までは、一定数の議員が必要という考え方や、それが整理された後は、少なくともいい。
- ・合併で日本全国の議員定数がかなり少なくなっている。それに倣うのではなく、市民のために議員活動ができる必要な人数を出してもらえばよい。
- ・合併により、議員が唯一、地元意見を吸い上げてくれる存在であり、地区に議員がいなくなったらという危機感がある。
- ・豊田市の合併は全国的に見ても特異な状況であり、都市と農山村の共生を考えるのであれば、それぞれに代表が必要。
- ・無駄が多いなら定数の是正は必要。豊田市全体を考える方に議員になってほしい。
- ・都市内分権で、地域会議等ができ、地域会議が自治区の代表としてやっていけるのであれば定数は半数でもよい。
- ・定数は削減でいいと思うが、住んでみると地域のことはわからない。合併時のように旧町村への配慮は必要。
- ・各中学校区に1人でよい。地域にとらわれない若い議員がでてくることに期待。
- ・定数を減らすかどうか議論するのではなく、効率よく分担して最低何人必要かを決めて割り振ればいいのではないか。
- ・行政の弱点を補完する仕事の内容、量、役割から定数が決まるのではないか。
- ・企業であれば、少ない人件費で、同程度のサービスが確保できればよいが、行政は少数派の意見も吸い上げていかなければいけない。
- ・いろいろな年齢差や、もっと女性が出られてもよい。
- ・豊田市は、他市に比べ、立候補者数と落選者数ともに少ない。議員活動で切磋琢磨することを期待すると、厳しい選挙の方が個々のレベルがあがるのでないか。
- ・これほど行政計画を多く持つ都市はなく、議会としてチェックが必要。
- ・政策提言に重きをおいて活動することが大事。

《その他の意見》

- ・議会の傍聴は、周知できていると思うが、委員会の傍聴についても、もう少し周知するとよい。
- ・市民は議員がどんな活動をしているのかわからない。もっと各地域で報告会を行ってほしい。

(3) 各委員意見（特別委員会における意見）

各種調査結果、意見交換会実施結果を踏まえた各委員意見は以下のとおり。

議員定数に関する意見について

① 46人とすべき

- ・平成21年度議員定数検討特別委員会の調査研究結果の考え方が今も妥当。定数を見直すべき客観的な要因は地方自治法改正による法定上限数の撤廃だけであり、定数を改正する必要はない。
- ・本年度、特別委員会で調査した結果を十分尊重して、総合的な見地から適正な定数を判断すべき。
- ・他市資料調査結果から監視すべき地理的範囲が広く、議員が監視すべき政策的な内容も多い。また財政的に見ても豊田市議会の議会費は過大ではない。
- ・有識者（大学教授）ヒアリング結果から「現在の議員数45人は多すぎる根拠にはならない」「定数46人は人口、面積の規模からみても実に妥当」「議会の権限を現状のままとする場合、増加させる要因は考えられない。基本は46人と考える」と述べられている。
- ・市民アンケート結果から多様な市民意見を市政に反映させるために地域・職域・団体等、様々な見地の議員が選出できる定数が必要。また現在の定数46人について「適正である」と答えた方が最も多い。
- ・各種団体との意見交換で地域に根ざした議員が必要との意見や現状で問題がなければ定数を変える必要はないという意見が多く、削減という意見は少数であった。
- ・5つの常任委員会が必要。また都市と農山村の共生に向けた問題の解決には、民意を反映できる議員数が必要であり、各常任委員会9人に議長を含め46人が妥当。
- ・住民の声を反映する代弁者として人口に応じた議員定数が必要。
- ・本市は、合併を繰り返す中で、低密度分散型の都市となり、自治体としての一体感はまだ低い。地域の声を市政に反映させるために議員の存在は切実。可住地面積の比較でも各議員が広域な地域の住民の声を代表すべく活動に奔走している実態が明らかになった。
- ・合議体としての議会機能を発揮できる定数として5常任委員会体制は、適切な委員会数であり、構成人数の全国的な比較からも議員定数46人は多すぎる事はない。
- ・若者、女性、多様な経験のある市民が立候補できる観点から、現定数の維持が必要。有識者ヒアリングでの丹羽教授の「議員の多様性の保持が重要」「議員定数を削減すると、議員構成のバランスが崩れることが懸念」という指摘は重要。
- ・多くの議員の目があるほど、行政のチェック・監視には有益・有効。
- ・定数を減らせば選挙にチャレンジする方が減る可能性がある。組織や支援がなくとも、声を反映できる一定水準の議員定数が必要。
- ・定数を減らさなくても政務活動費や議員報酬を減らすことで議会改革、行財政改革において身を切る覚悟で取り組んでいることを示すことができる。
- ・農山村地域の合併後の課題は、過疎が進む中、多くは残ったままである。農山村地域の代表として議員の確保は重要。

② 40人とすべき

- ・行財政の改革、議会の活性化、多様な意見の反映の考え方から40人が妥当。
- ・市民アンケート結果で定数が「適正」が41.3%である一方、「減らしたほうが良い」が28.3%、「わからない」が26.0%であり、合計するとそれぞれ判断しにくい。また女性では、「減らしたほうが良い」が多く、引き続き行財政改革を考えるべき。
- ・有識者ヒアリングで二人の教授が常任委員会を軸として考えるべきと述べており、5常任委員会×8人の計40人として、最小の議員で最大のアウトプットを出す効率的な議会を目指すべき。意見が割れた際、委員長を除き3対4で採決ができる、あるいは委員全員が発言できる数であり、委員会を開催するには適正な数。
- ・議会の活性化について、本市の常任委員会は、定例会以外の会議が他中核市と比較して少なく、より一層活動の活性化に繋げていくべき。特別委員会の数を増やし、毎年、全議員が活動できる体制にすべき。課題解決手法として、都市部や中山間・山間地域に考慮したテーマを選出、調査研究・政策立案し、政策提言に繋げるべき。
- ・より多くの課題抽出、市民意見集約のため、地域会議やコミュニティなど各種団体との定期的な懇談会を実施し、活性化を図るべき。
- ・定数を削減することで各議員に対する責任が増し、率先して自己啓発を図るなどの積み重ねにより、議会活性化に繋がる。
- ・職員適正化や行財政改革を執行部へ要請する議会としても範を示すことが必要。

③ 36人とすべき

- ・常任委員会に対し、委員長も含め、奇数であるべきという観点から1常任委員会あたり7人が妥当であり、議長含め36人が妥当。

現状（定数46人、現員数45人）について

- ・議会の機能は發揮できるが、多様な住民意識の反映には大いに支障がある。
- ・地域課題の把握に対しては、区長会、コミュニティ、地域会議などの機関があり、議会が課題の吸い上げを行えば、問題はない。
- ・議会としてチェック機能、監視機能が弱まる。
- ・議会の機能は、住民の声の代弁機能、行政に対するチェック機能、行政に対する提案機能など総合的なもの。現時点では46人を前提に動いており、議会の権能として支障がある。
- ・1年間の問題が5年後、10年後にどういう影響が出るかであり、近視眼的な形で行動をしているわけではなく、影響がどうであったかは判断しかねる。

議員定数に関する共通項目について

共通して重要と考える項目について、以下のとおり確認した。

- | | |
|-----------------------------|------------------|
| ・調査結果の尊重 | ・行財政改革、議会活性化の必要性 |
| ・多様な意見の反映 | ・合併を繰り返してきた歴史的背景 |
| ・常任委員会は既存の5つ | ・地方分権の進展 |
| ・議会の多様性、監視チェック機能を果たせる議員数の確保 | |

2－3 調査研究結果

議員定数について

これまで委員長を中心に特別委員会として、各種調査研究を行い、さまざまな議論を経て、共通項も多く見出しており、全会一致が望ましいとの意見があり、正副委員長による調停案を提示することとなった。

《正副委員長による調停案提示と結論》

委員長より、「調査結果や会派の意見もあるが、議会活動・議会運営を進める上で、また議員間での意見のやり取りや会派を越えた行政運営をも考慮しなければならない問題も多くあり、多数の意見をお互いに吸収し合って合意形成を図る必要がある。」として、議員定数 45 人とする調停案が提示され、本特別委員会としては、委員意見の大勢を占めた以下の結論に決定した。

議員定数は 45 人とする

＜調停案に対する各委員の意見＞

- これまで行ってきた調査結果からは定数 46 人と考えるが、今後の議会運営を円滑に進めることができが市民の利益になると想え、調停案に同意する。
- これまで 40 人を主張してきたが、調停案 45 人の判断に賛成する。今回の調査結果にあるそれぞれの議会改革、多くの市民の意見の反映について、力をあわせ、議会活性化に向けて取り組んでいく。
- 全会一致が望ましいという見解から調停案に賛成する。
- 一致できるものがあればよいが、各会派の意見が違うのであれば、特別委員会での調査結果内容と結論に沿って判断すべきであり、賛同できない。
- 調査した結果から 46 人に問題ないと考える。各会派、各議員の考えではなく、市民にとってどのような定数、議会であるべきか検討した結果でも 46 人と考え、賛同できない。

5 おわりに

平成 23 年度に豊田市議会初となる地域市議会報告会、市民シンポジウムが開催されてから約 2 年が経過した。地域市議会報告会はこれまでに計 8 地域で延べ 633 人の方にご参加いただいており、平成 26 年度には市内全地域での開催が一巡する予定である。

今回、本特別委員会では、さらなる議会活動への市民の参画に向けた効果の再検証を行った。中間報告を行い、地域性を考慮した報告内容、質問の事前受付など一部試行実施したところ、一定の評価が得られ、効果的な提言を作成することができた。

今後、提言内容に沿った運営体制の構築に取り組まれたい。

議員定数の検討にあたっては、平成 23 年度の地方自治法の改正により、これまで人口に応じて定められていた法定上限数が撤廃され、それぞれの自治体がそれぞれの考えにより定めることとなった。

本特別委員会では、議員定数を検討するに際し、初めて外部委託し、他の中核市すべての自治体指標を対象に本市との比較調査をし、数値に基づく客観的評価を行った。同時に定数に関する事例調査や大学教授への聞き取り調査を実施した。また市内の有識者団体始め 17 の組織などとの意見交換や地域市議会報告会では、定数の検討状況を報告し、同時に 1 千人を超える方々へのアンケート調査から貴重なご意見を伺ってきた。

これら市民の声に耳を傾け、各種調査結果から各委員がそれぞれ意見を出し合い、活発な意見交換がなされた。それぞれ痛みを感じる度合いも異なり、またすべての議員の満足はかなわない大変大きな事柄であったが、会派を越えた今後の行政運営をも考慮いただいた結果、最終的な結論へ辿りつくことができた。

今回、ご協力いただいた議員各位と多くの市民の皆様をはじめ、関係者の方々に深く感謝を申し上げたい。

地方分権の進展する中、議会・議員の役割はますます大きくなっている。より一層市民の負託にこたえていくために市民の声を市政へ反映し、行財政改革に向け、引き続き行政を厳しく監視するとともに、さらなる開かれた議会を目指し、地域市議会報告会をはじめとした議会活動の見せる化を進める必要がある。

今回の調査研究結果から、さらに議会改革が進むことを期待しつつ、市民の皆様からいただいた多くのご意見を踏まえ、引き続き議会活動・議会運営の活性化に努めていく。

< 添付資料 >

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|-------|------|
| 団体名 | 連合愛知豊田地域協議会 | | | |
| 日時 | 平成25年9月17日（火） 午後5時00分～午後5時45分 | | | |
| 場所 | カバハウス 404号室 | | | |
| 出席者 | 8人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | 田代 研 |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 加藤 和男 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> 定数を決めるにあたって他市と比較するだけではなく、直接、地域と接している議員の感覚を大事にしてもいいのではないか。 他市との比較にあたって単に数字だけではなく、何を主眼において定数を決めてきたのか、他市の中身についても十分検討が必要。また本市独自の取組を今後どうしていくのかなどを含め、本質を見極めながら検討してほしい。 議員の数と市職員数とは比例関係ではない。市職員数は市民サービスの質や量により変わり、条例や政策を決定する議員としての役割とは異なる。それぞれ検討する切り口は異なるので整理が必要と思う。 | | | |
| | <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> 合併してまだまだ課題が残っている。当初の目標が達成できていないものや逆に無駄があるのであれば、その精査のために、ある年までは、一定数の議員が必要という考え方や、それが整理された後は、少なくともいいという考え方もあるかもしれない。 地域会議間の交流・連携ができるとよい。 最終的な検討結果を報告してほしい。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|-------|--|
| 団体名 | 一般社団法人豊田青年会議所 | | | |
| 日時 | 平成25年9月25日（水） 午後5時50分～午後6時40分 | | | |
| 場所 | ロイヤルホテルうお八 3階会議室 | | | |
| 出席者 | 6人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・次の任期の間に財政がどうなるかが重要。仮に議員を一人減らしても財政的な影響はごくわずかであり、例えば建設予算を削減した方が効果的である。財政が許せば、今の定数を維持してもよいと思う。その分、未来の豊田市に向けていろいろなことをやっていただいた方が良い。一般市民の感覚とすれば、仮に減らしたほうがよいかと質問をされれば、減らした方が良いと答えるのではないかと思う。 ・現在は、旧6町村地域からそれぞれ最低1人は議員が選出できているが、定数を少なくすると、議員が全く選出されない地域が出るのはどうかと思う。必ず各地域選出の議員が確保できている状態で、仮に定数を減らす結論ならば、減らしても仕方がないのではないかと思う。 ・類似都市を参考にすることだが、果たしてその都市の定数が妥当かどうかはぜひ検討いただきたい。極端な例も比較し、本市の強み、弱みを分析しながら、方針を検討してほしい。 ・合併をして議員の数が大幅に減った際、どういう影響が出ているのか。ひずみのようなものが出ていないか。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・企業であれば、少ない人件費で、同程度のサービスが確保できればよいが、行政は少数派の意見も吸い上げていかなければいけないと思う。合併で議員数を大幅に減少したことについて、市民がどのように感じているのか。アンケートなどに回答はしないが、意見を持っている方の意見をどのように吸い上げていくのかも重要である。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|---|-------|-------|-------|
| 団体名 | 豊田市區長会 | | | |
| 日時 | 平成25年9月26日(木) 午後3時50分～午後4時50分 | | | |
| 場所 | 市役所南庁舎4階 大会議室 | | | |
| 出席者 | 5人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | 山口 光岳 |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | 田代 研 |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 加藤 和男 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市民アンケートについて、議会に対する理解の成熟度により、結果が変わるものではないか。 ・他市の状況もあるが、豊田市は豊田市の考え方で定数を決定してほしい。法定上限数が撤廃された、これからが一番大事なときである。合併町村、街中ともに大切である。そのあたりも考慮が必要。 ・合併により、日本全国で議員定数がかなり少なくなっている。それに倣い少なくするのではなく、市民のために議員活動ができる必要な人数が出てもらえばよい。 ・意見交換会を実施していく中で、議員定数についての結論のようなものがみえてくるのではないか。 ・市民アンケートは無記名であるので、ある程度、思っていることも出てくるのではないか。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議会を傍聴するが通告制であることもあり、議員・執行部とともに自分の言葉での発言になっていないように感じる。 ・執行部の評価・監視だけではなく、議員はまずは地元中心でやっていただきたい。地元に足を運び、地元をよく知って的確に市政に反映してほしい。 ・一般質問は通告制の方が、正確な回答が引き出せるのではないかと思う。 ・議会の傍聴は、周知できていると思うが、委員会の傍聴についても、もう少し周知するとよい。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|---|-------|-------|--|
| 団体名 | 豊田市子ども会育成連絡協議会 | | | |
| 日時 | 平成25年9月28日（土） 午後4時40分～午後5時30分 | | | |
| 場所 | 青少年センター 会議室 | | | |
| 出席者 | 10人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 田代 研 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中核都市では1万人に1人の定数が妥当との意見があるが、近隣の岡崎市、豊橋市と比較した場合、倍以上の面積があり、異なると思う。 ・合併により、議員が唯一、地元の意見を吸い上げてくれる存在であると感じ、地区に議員がいなくなったらという危機感がある。豊田市は他の都市とは違い、広範囲に神経をめぐらしている都市であり、46が少ないとは思わない。 ・議員は市民の代表であり、運営には面積や産業特性など地域性にあった議員定数を考えねばならない。他の中核市比較もどう違うのか具体的に調べて、必要な定数を決定してほしい。景気に左右されず、中長期的なビジョンで議員は動いてもらえばよい。 ・何人であれば議会が活性化できるか、考えるのは議員であり、市民の声が吸い上げられる議員活動ができる数を議員自身が検討すれば、議員が活性化すると思う。 ・選挙区制を設けているような自治体はあるか。地域のことを見て欲しいという考えはあるので方策が良いかどうか別として参考になるのではないか。 ・子ども会も合併地域の役員が減った。市で子ども会を運営する際に、地域を一番理解しているのは、やはり地域から出た議員なのかなと思う。考え方の中で、必ず地域から議員が出る形の方が、地域とうまくやっていけるのではないか。 ・現在の豊田市議会は、少数派の意見が汲み取られにくい組織であると思う。単に近隣や人数だけの比較でなく、全国的な動向や産業構造などマクロな視点で調査されるとよい。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|-------|-------|
| 団体名 | あいち豊田農業協同組合 | | | |
| 日時 | 平成25年9月30日(月) 午後2時30分～午後3時30分 | | | |
| 場所 | JAあいち豊田 5階 特別会議室 | | | |
| 出席者 | 6人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | 山口 光岳 |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | 田代 研 |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 加藤 和男 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現状に大きな問題がなく、地域の声が反映された議員が出てくるのであれば現在の定数でよい。人口も微増する中で、議員を減らす意味が単に税金の無駄遣いをなくすという発想ならば議員定数を減らすのはどうか。 ・都市部と中山間地は同じではなく、それぞれ広く民意をとらえる必要がある。各地域から均等に議員を出せる議員定数がよい。 ・一選挙区での選挙実施を決めた当時と、現在とで、議会の活動や地域の人の評価はどうか。今の議員定数で問題があるのか評価しないといけない。財政面は別として、異論や不満がなければ、良しと判断してもよいのではないか。 ・地域代表で出ている方は比較的年齢が高いように感じる。いろいろな年齢差や、もっと女性が出られてもよいのではないか。 ・豊田市は、他市に比べ、立候補者数と落選者数ともに少ないと思う。議員活動で切磋琢磨することを期待すると、厳しい選挙の方が個々のレベルがあがるのではないか。 ・女性の参画を増やす意味で女性枠を設けられないか。 ・現定数を少なくした場合、市民の意見を汲み取るパイプは細くなる。 ・合併した市町村にとっては、当面は地域を重視することも止むを得ない。時間をかけて都市が円熟していけば、いろいろなイデオロギーを各地域で発信する選挙の形態に変わってくる。まだ過渡期であるので、あえて難しく考えるには、豊田市はまだ若すぎるのではないか。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|---|-------|--|--|
| 団体名 | 豊田市消防団 | | | |
| 日時 | 平成25年10月2日（水） 午後5時55分～午後6時45分 | | | |
| 場所 | 消防本部3階 第一会議室 | | | |
| 出席者 | 4人 | | | |
| 特別委員会 | 桜井 秀樹 | 作元志津夫 | | |
| | 岩月 幸雄 | | | |
| | 岡田 耕一 | | | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山間部と旧市街化地域では議員の立場が微妙に異なる。山間部の議員は地域の代表ということで、消防団とのつながりも強かったが、最近は距離を感じる。合併前は、活動拠点は支所であったが、合併により拠点が各消防署出張所となり、接点が希薄になった。議員定数は44分団があるので、そのくらいは必要ではないかと思う。 ・定数が減ると地区から議員がなくなる可能性があり、深刻な問題である。仮に地元から議員がいなくなった場合、街の議員が旧町村をみてくれるのか心配である。可能であれば、旧町村ごとに1～2人議員がいるとよい。 ・地元に味方がいるのは心強い。定数は分団に1人+αくらいは必要と感じている。ただし今の定数が適正なのかどうかははつきり言えない。 ・山間部で学校が統廃合されているが、同じように議員定数を単純に減らしてよいのかは真剣に検討いただきたい。仮に削減した際でも、豊田市全体を平等に見る意識を議員には持っていただきたい。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・若い消防団員は議員を知らない。できる限り団員と交流を深める機会をもっていただきたい。 ・消防団員は、仕事を抱えながら地域のことを考えて活動している。いろいろな場でしっかり応援をしてほしい。消防団員の扱い手も少なくなっている。地域の催しなどでの声かけやPRをして、市民に必要性を理解してもらえると消防団員の勧誘も行いやすくなる。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|-------|-------|
| 団体名 | 豊田市母子保健推進員の会 | | | |
| 日時 | 平成25年10月7日（月） 午前9時25分～午前10時12分 | | | |
| 場所 | 市役所 東31会議室 | | | |
| 出席者 | 6人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | 山口 光岳 |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | 田代 研 |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 加藤 和男 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・合併に伴い議員数が減った場合に意見交換など影響はどうだったのか。 ・地域内バランスは良いのか、悪いのか、実際に活動してみてどうか。実際に住んでみないとわからない課題があると思う。地域に住んでいる議員がいると発言の重みも違うと思う。 ・身近な課題の解決について、議員よりも区長に相談する体制が整っている気がするため、議員は減らしてもよい。少数の議員でしっかり話し合って良い議会にしてほしい。 ・議員を減らして、旧町村から議員が一人もいなくなってしまうとパイプ役がいなくなり困る。 ・旧町村は意見が届かないところがあるのではないか。地域的にバラツキがあっては良くない。財政的には議員は減らしていくのかなと思う。 ・旧町村もあるが、自分の地域から議員がいなくなるのは困る。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員として自分の地域を見ることも大事だが、大局的に見て活動していただく必要もある。これから身近に議会に関心をもっていきたい。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|---|-------|-------|------|
| 団体名 | 商工会（藤岡、小原、足助、旭、下山、稻武） | | | |
| 日時 | 平成25年10月7日（月） 午後6時55分～午後8時10分 | | | |
| 場所 | 足助支所 2階会議室 | | | |
| 出席者 | 18人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | 田代 研 |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 山口 光岳 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・広く市民の意見を集約することは大変なことと思う。可能であれば現状維持をお願いしたい。 ・都市内分権で、地域会議等ができ、議員が直接動くよりもコミュニティが働きかけた方が手堅いという意見もある。地域会議が自治区の代表としてやつていけるのであれば定数は半数でもよい。 ・定数は削減でいいと思うが、住んでみないと地域のことはわからない。合併時のように旧町村への配慮は必要。 ・組織の役割分担が市民にわかりにくく、線引きをはっきりしてもらえば、定数についての意見が出せるが、今は時期としてまだ醸成していないと感じる。定数については、現状が多いのか、少ないのかが判断のスタートになる。豊田市の合併は全国的に見ても特異な状況であり、都市と農山村の共生を考えるのであれば、それぞれに代表が必要。そのあたりを慎重に定数に反映させる必要がある。 ・財政面で議員を削減するのはどうかと思う。地域会議は宛て職が多く、多忙であり、議員の代わりになるものではない。旧町村人口は少ないが、集落間の移動距離も多く、単純な話ではない。 ・旧町村をバランスよく守っていくには現状くらいの議員が必要。議員が出せないような地域では魅力もなくなっていく。お金の問題ではない。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・委員の会派等所属について ・アンケートについて、ある程度の資料を提示していただかないとい意見も出せないと思う。 ・アンケート結果がどの程度反映されるのか。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|---|-------|-------|--|
| 団体名 | 豊田市老人クラブ連合会 | | | |
| 日時 | 平成25年10月8日(火) 午後1時26分～午後2時17分 | | | |
| 場所 | 市役所 東73会議室 | | | |
| 出席者 | 11人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 岡田 耕一 | 神谷 和利 | |
| | 桜井 秀樹 | 三江 弘海 | 田代 研 | |
| | 岩月 幸雄 | 作元志津夫 | | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・議員定数は1万人に1人でよい。各中学校区に1人と人口密集地には2人で40人でどうかと思う。 ・アンケートなど意見を聞くこともよいが、議員自身の考えを出してもらう必要がある。 ・現在46人の議員の地域分布はどうなっているか。山村部、農村部、都市部など地域性や、人口的な平等性が必要と思う。また歳費を抑えて定数を上げるなどの考えもあるのか。 ・現実的には、地元の発展・活性化のためには地域に最低1人はいてもらえるシステムが必要。議員活動を行うのに何人必要か謙虚な視点で考えて、定数を決めていただく必要がある。 ・定数を減らすかどうか議論するのではなく、効率よく分担して最低何人必要かを決めて割り振ればいいのではないか。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間で2,000人ほど老人クラブ会員が減り、会員をいかに増やすか検討している。働きかけをお願いしたい。 ・議員報酬額の妥当性についてどうか。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|--|--|
| 団体名 | 豊田商工会議所 | | | |
| 日時 | 平成25年10月9日（水） 午後4時10分～午後5時02分 | | | |
| 場所 | 商工会議所 2階会議室 | | | |
| 出席者 | 5人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 神谷 和利 | | |
| | 桜井 秀樹 | 加藤 和男 | | |
| | 作元志津夫 | 田代 研 | | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定数を議員自身で検討しているが、本来は行政主導で行うべきではないか。 ・アンケート結果について、どのように調整されるのか。 ・過去にも定数の話は行った経緯があるが、今回、検討する理由はなにか。 ・これほど行政計画を多く持つ都市ではなく、議会としてチェックが必要。単純な中核市の人数比較より、類似都市の比較要件に複合的な比較も必要。 ・職員が専門化する中、縦割りでなく、高所から横串をさす仕組みを、どのような形、方法で行うかも定数にも関わる話になる。行政の弱点を補完する仕事の内容、量、役割から定数が決まるのではないか。多様な立場、考えをもつ議員で横串の仕組みができると理解されやすい。 ・議会活性化とはどういう考えをもっているか、議員を例えれば半分や1/4にしたらどれほど不具合があるのか、何ができないのかなども検証が必要。 ・ある程度、定数議論のための材料づくりをして、最後はトップダウンでないと決まらないのではないか。 ・定数の根拠は難しい。理由を積み上げて数字を出すのは難しく、また数字の根拠は一過性のものである。 ・チェックだけで46人必要なのか。むしろ政策提言に重きをおいて活動することが大事。成果が出てくると身近になってくる。 <p>《議会、議員に期待すること、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市長を含め、豊田市をどういう街にしたいのか、大きな目標があって、そこに向かっていくのが、民間も含め、一番活性化することではないか。豊田市は特にそれができる力がある街だと思う。そのためにこうすることをしないといけないから、これだけ定員がいるとか、そういう話になると思う。 ・逐次、報告・意見交換の場をもってほしい。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|--|--|
| 団体名 | 豊田市PTA連絡協議会 | | | |
| 日時 | 平成25年10月9日（水） 午後7時00分～午後7時33分 | | | |
| 場所 | 青少年センター 2階大会議室 | | | |
| 出席者 | 13人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 神谷 和利 | | |
| | 桜井 秀樹 | 加藤 和男 | | |
| | 作元志津夫 | | | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・近隣の岡崎市は37万人で37人、豊橋市が38万人で36人、一宮市が38万人で40人、何が適切かは難しいが、愛知県内の中では飛びぬけて多いわけではなく、他と比べるならこのくらいが適切なのかなと思う。 ・率直に議員定数が多いのか、少ないのか、どのように考えているか。 ・議員の資質について、少数精銳でやっていただけた方が有益であるが、資質とは何を基準にして見極めればよいのか。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|--|-------|-------|------|
| 団体名 | 豊田市消費者グループ連絡会 | | | |
| 日時 | 平成25年11月1日（金） 午前9時33分～午前10時42分 | | | |
| 場所 | 産業文化センター 2階情報交換室 | | | |
| 出席者 | 20人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 大村 義則 | 作元志津夫 | 田代 研 |
| | 桜井 秀樹 | 岡田 耕一 | 加藤 和男 | |
| | 岩月 幸雄 | 三江 弘海 | 山口 光岳 | |
| 主な意見 | <p>《議員定数を検討するうえでの考え方、ポイント、その他》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中学区に1人と豊田市全体のことを考える方が10～15人いればよい。代わりに歳費はあげるべきである。若い方に入ってほしい。またお金がかからない選挙をしてほしい。 ・中学校区に1名でよい。地域にとらわれない若い議員がでてくることを期待している。 ・個人の主義・主張があって、議員になっていると思うので、地域の代表という考え方をやめてほしい。また個人の資質や情報発信力が重要である。 ・無駄が多いなら議員定数の是正は必要。豊田市全体を考える方に議員になってほしい。 ・全国平均に倣う必要はなく、少ない人数でも価値を見出したり、また人数が増えても経費が変わらないならそれも誇れることではないか。 ・地域の代表も大事だが、選挙権のない子どもや選挙に行かない若者、子育て世代の意見なども聞いてほしい。議員定数は、多様な意見を得るためにもある程度の人数は必要。 ・結果の公表について（アンケート結果、意見交換の実施団体及び内容など）はどうか、わかりやすい資料を提示してほしい。 ・市民は議員がどんな活動をしているのかわからない。もっと各地域で報告会を行ってほしい。 ・市民の側におりてきて現状を把握してほしい。その中から市民の考え方を吸い上げ、市の施策に対する意見を言っていただくことをしないと、議員と市民の意志疎通がおきてこない。ぜひ議員から現状を知る努力をしてほしい。そのためには情報発信をしてほしい。 ・旧合併町村からでた議員は過疎など多くの問題を抱えており、大事にしてほしい。 ・議員定数が増減することのメリット、デメリットは何か。報酬と議員定数の関係には興味があり、みていきたい。 | | | |

《意見交換会実施記録》

| | | | | |
|-------|---|-------|--|--|
| 会議名 | 地域市議会報告会 | | | |
| 日時 | 平成25年11月9日（土） ①午前10時56分～11時15分 ②午後2時52分～午後3時18分 | | | |
| 場所 | ①上郷交流館 ふれあいホール ②旭交流館 大会議室 | | | |
| 参加者 | ①一般50人 議員25人 計75人 ②一般39人 議員27人 計66人 | | | |
| 特別委員会 | 梅村 憲夫 | 桜井 秀樹 | | |
| 主な意見 | <p>《上郷交流館での意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> 前回の定数を決める際のシンポジウムの講師が、議員定数は少なければ少ない方がいいというものではなく、豊田市は42万都市であり、相応の数が必要である。また財政面からも、議会費用は他の費用や一般会計総額からすれば少ないと話があり、最もであると思った。広大な地域で、人口も多く、他市からの流入人口も歴史的にみて多い。議員が地域住民と結びついて、要望や意見をしっかり聞いてもらってやってもらう点で、今の定数は必要な数だと思う。 <p>《旭交流館での意見》</p> <ul style="list-style-type: none"> 合併後10年目を迎える。豊田市の合併は都市と農山村の共生を目指したまれな合併である。面積は名古屋市より広く、人口は少ない。市全体をみると様々な基盤をもつ議員がいるが、議員の後ろには市民があり、公平に政治の恩恵にあずかる権利がある。都市部や農山村部などそれぞれ各地区からさまざまな考え方をもった議員が出ていていると考えているが、人口が少なくともそこに住む市民に対して都市部と同じ政治の恩恵を預けていただきたいと思う。現状の46人が一番妥当だと思う。 | | | |